



【ご挨拶～サミットに寄せて～】

このたびは、山口市において、第19回雪舟サミットが開催されますことを心よりお祝い申しあげます。

山口市長様をはじめ、本サミットの開催に向けてご準備くださいました関係者のみなさまには、多大なご尽力をいただきまして、大変感謝しているところでございます。

本サミットが、雪舟ゆかりの地である6市の絆を深めて更なる交流を図り、各市が個性的で魅力的なまちづくりを行っていく機会となりますことを願っております。



三原市長 岡田 吉弘

【市の紹介】

三原市は、広島県の中央、やや東部に位置する、瀬戸内海に面したまちで、筆影山や竜王山などから、素晴らしい多島美を味わうことができます。また、さまざまな気象条件が重ならなければ発生しないとされる海霧を、運が良ければ見ることができます。

古くから近畿と九州を結ぶ交通の要衝として発展し、鎌倉時代から戦国時代にかけて小早川氏が台頭してくると、小早川氏ゆかりのお城が築城されてきました。特に三原城は、小早川隆景の居城として築城されました。現在ではJR山陽新幹線・山陽本線に貫かれる珍しいお城となっています。また、三原城と新高山城は、「続日本100名城」に認定され、広島県内だけでなく県外から多くの観光客が訪れています。

【雪舟とのつながり】

鎌倉時代から戦国時代にかけて小早川氏が台頭してくると、お城だけでなく、小早川氏ゆかりのお寺も創建されていきました。

その一つである佛通寺は、雪舟ともゆかりがあります。佛通寺は応永4年(1397)年に小早川春平が愚中周及を招いて開いた寺であり、臨済宗佛通寺派の大本山です。佛通寺には雪舟が滞在したとされる篠月庵の跡地や、雪舟がつくったとされる庭園があります。この庭園はガーデンツーリズムの構成要素となっています。

また、佛通寺には、雪舟の描いた「金山図」と「育王山図」が近世初期まで伝えられていたとされています。この絵図は、江戸時代、広島藩の藩主であった浅野氏に没収され、現在は、広島藩の御用絵師であった狩野安信が描いた模写が残されています。